

秋冷の候、金木犀の香りが街角に漂い、空高く澄み渡る季節となりました。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

本年の年次大会も多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。活発な意見交換と多くの興味深い話題の共有により、大変有意義な場となりましたこと、心より御礼申し上げます。

今月のJPhMedニュースでは、大会長の久我先生から大会の振り返りをご投稿いただきましたのでぜひ一読ください。

JPhMedでは、このニュースレターだけでなく、より速報性のあるSNSの活用を進めています。LinkedInから発信していますので、ぜひ時々チェックしてみてください。

季節の変わり目、皆様にはどうぞご自愛のうえ引き続きご活躍されますようお祈り申し上げます。

広報部会一同

第16回年次大会を終えて

開催から3か月が過ぎました。今年度の年次大会は皆様にとって有益なものだったでしょうか。本稿では年次大会に合わせた用語集のHP掲載、会場での懇親会開催、SNSの活用開始と新しい試みがあったことを振り返りつつ、印象的だったエピソードを1つ紹介させていただきます。

用語集作成ワーキンググループの皆さんに懇親会で記念品を贈呈しました。その際、患者会の方から、用語集は患者会にとって大変価値があると作成者の一人がお声がけをいただいたそうです。

本学会の活動は製薬医学の発展に貢献しようという会員の自主性にたよる部分が大きく、積極的な活動を継続するにあたっては相応の覚悟が必要です。今回の用語集の作成でも数々の困難があったのですが、当事者の方に温かい言葉をいただくだけで、その作成者は苦勞が報われたと感ずることができた。私はその話を伺って、大変うれしく思いました。

昨今、スポットライトを浴びて中身の無いプレゼンをしている写真をSNSで互いに褒め合う人たちが増えているように思います。写真の投稿に夢中な方々の活動(?)は瞬間的に注目を集めますが、すぐに消費されていくだけで何も残りません。

このような風潮のなか、本学会会員の皆さんの多くはもっと本質的な価値を求めている、と私は信じております。

本年次大会から始まった本学会のLinkedInのフォロワー数は現在もたったの135名です。しかし我々JPhMedは「いいね！」が欲しくてSNSを始めたのではございません。SNSを通じて会員の皆さまの価値ある活動を地道に発信していきたい、と考えております。「みんなでつくる製薬医学」をテーマにした今年度の年次大会。ご協力くださいました全ての皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

第16回年次大会会長 久我 敦



ご存じでしたか？

JPhMed会員は、オンデマンド配信期間終了後も会員ページから年次大会の一部セッションの講演資料を閲覧可能です。過去の年次大会や各種セミナーの一部についても資料の閲覧が可能です。会員のみなさまはぜひご利用ください。また、非会員の方は入会をぜひご検討ください！

ドラッグラグ・ドラッグロスWG 第1回勉強会が開催されました

臨床開発部会、MA部会合同の本WG第1回セミナーを10月21日に開催しました。神戸大学大学院医学研究科 小児科学分野 教授 野津寛大先生を講師にお招きし、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の医師主導治験のご経験からドラッグラグ・ドラッグロスの課題と産官学連携の可能性まで、ご講演と活発な議論が行われました。

第17回年次大会のお知らせ

大会テーマ：
薬が届く社会、知がつかなく医療、データが築く未来 — 製薬医学ができること

日程：2026年7月24日（金）～25日（土）

会場：日本橋ライフサイエンスハブ（東京）

大会長：西馬 信一（副理事長／MA部会長）

JPhMedニュース、LinkedIn等での続報をぜひ楽しみにお待ちください！

JaphMed LinkedInはこちら！
<https://www.linkedin.com/company/一般財団法人-日本製薬医学会/>



発行：日本製薬医学会

一般財団法人日本製薬医学会 事務局

〒108-0023 東京都港区芝浦 4-15-33

芝浦清水ビル 株式会社 マディア内

E-mail : zymukyoku@japhmed.org

<https://japhmed.jp>